

おうちクリーニング

co-op

# おしゃれ着 洗い

## 使い方ガイド

CO・OPおしゃれ着洗いでは「洗たく機での洗たく」と「手洗い(つけおき洗い)」ができます。

### 目次

- 洗たく機の「ドライコース」……………2  
などで洗う
- 手洗い(つけおき洗い)で洗う …… 3
- 干し方 ……12
- 仕上げ方 ……13
- こんな事が起きないために ……14

## 洗たく機の「ドライコース」などで洗う (縦型洗たく機、ドラム式など)

### 洗えるものを確認

洗たく機の種類やコースにより、洗えるものが異なります。  
必ず洗たく機の取扱説明書にしたがって確認してください。

※洗たく機のコースには「ドライコース」「おしゃれ着コース」「手洗いコース」「おうちクリーニング」などがあります。

### 洗たく物の仕分けと準備

4 ページの手順にしたがって、準備をしてください。  
落ちにくい汚れがある場合には、洗たく前の前処理が効果的です。

### おしゃれ着洗い使用量の目安

洗たく機の取扱説明書で洗剤使用量をご確認ください。  
洗剤使用量が書かれていない場合は、

8 ページの使用量の目安をご参照ください。

### 洗い方

- ①伸び、絡まり、型崩れなどを防ぐため、洗濯ネットに入れる。
  - ②手洗／おしゃれ着／おうちクリーニング／ドライなどの弱水流で洗う。
  - ③ためすすぎ1回ですすぎます。
- ※お好みで2回以上すすいでいただいても問題ありません。  
※柔軟剤・酸素系漂白剤も使えます。

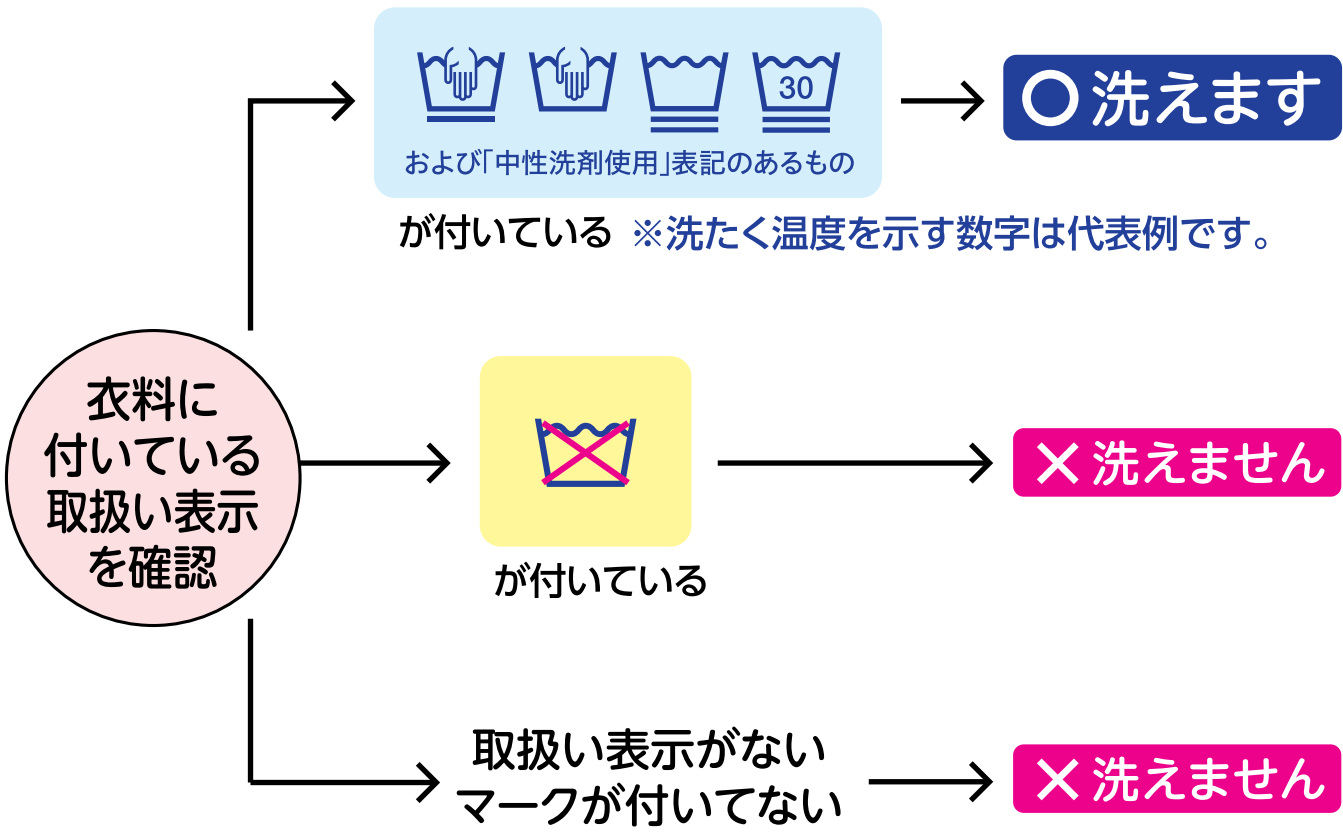
### 干し方・仕上げ方

8 9 ページの手順を参考に、型くずれを起こさないように  
ていねいに仕上げてください。  
※ご家庭で洗えないものは、クリーニング店に任せてください。

# 手洗い(つけおき洗い)で洗う

## 洗えるものを確認

※こちらは手洗い(つけおき洗い)での見分け方です。  
 洗たく機のドライコース使用の場合は洗たく機の取扱説明書をご覧ください。



**!** 素材の不明な(洗たく絵表示のない)ものは洗わないでください。

※ご家庭で洗えないものは、クリーニング店に任せてください。

# 洗たく物の仕分けと準備

## 1 ポケットを点検する

小銭、紙くずや砂など、中に残っていないか点検します。

## 2 洗たく物を仕分ける

白物と色柄物、アンゴラセーターなど毛のつきやすい物などを分けて洗います。

## 3 洗たく物をチェックする

### ●色落ち確認

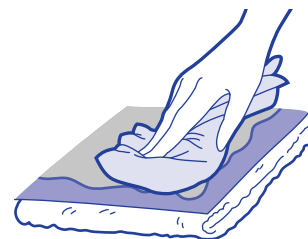
特にプリント染め、極端な色使いの物は洗う前に必ずチェックしてください。

### 【色落ち確認の方法】

①色落ちしそうな部分(裏地のない目立たないところ)に白いタオルを敷き、おしゃれ着洗いの原液をつけます。

②5分後に別のタオルで強く押さえ、下にあてたタオルへの着色(色落ち)を確認します。

※色落ちするものは洗えません。



タオルを敷いて

### ●裏返して洗う

パール、ビーズなど装飾物のついた衣料、絹、レーヨン類混紡品など傷みやすい衣料、ラメの衣料は裏返して洗ってください。

## 4 前処理をする

シミやえり・そで口の気になる汚れなどがある場合は、洗う前におしゃれ着洗いの原液をつけ、タオルなどでやさしく押さえてください。

# 洗たく液のつくり方

まず、水におしゃれ着洗い液を入れ、軽やかきませてください。

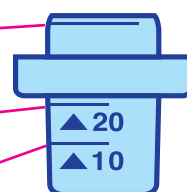


必ず新しい水を使用してください。

- お湯・お風呂の残り湯、1回使用した洗たく液は使用しないでください。
- 縮みや型くずれを防ぐため、30℃以下の水を使ってください。



## ■使用量の目安

タテ型	水30Lに40ml
ドラム式	衣類1kgに20ml
手洗い(つけおき洗い)	水4Lに10ml



※キャップ1杯は約43mlです。



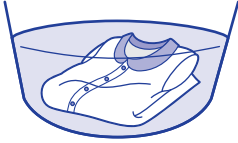
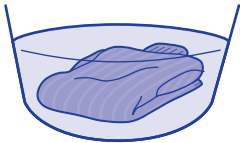
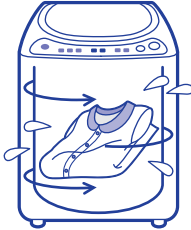
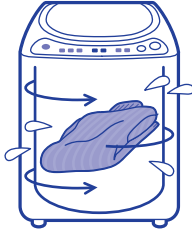
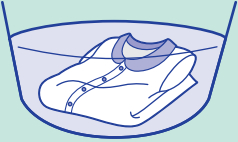
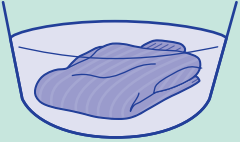

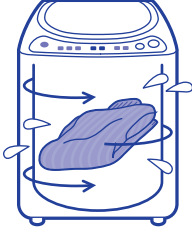
## ■洗たく液の作り方 目安 ※手洗い(つけおき洗い)時

				
	洗面器など	洗面台など	バケツなど	洗たく機を利用した 手洗い(つけおき洗い)の場合
水 量	約1.5Lの場合	約5Lの場合	約10Lの場合	約30L
おしゃれ着洗い量	約4ml	約13ml	25ml	75ml

★水量は洗たく機により異なります。洗たく機の表示や取扱説明書などで確認してください。

★ドラム式洗たく機でのつけおき洗いはできません。

# お洗たく方法①

洗うものの種類	<b>ブラウスなど 薄手の衣料</b> 綿、麻、絹などの ブラウス、ワンピース、 シャツ、下着 	<b>セーターなど 冬物衣料</b> ウール、カシミア、 アンゴラなどの セーター、 カーディガン 
	<b>1~3分</b> 収納するときのよう にたたんで <b>洗たく液に</b> つけておきます。 	<b>3~5分</b> 収納するときのよう にたたんで <b>洗たく液に</b> つけておきます。 
※汚れが気になる部分はやさしく押し洗いしてください。		
脱水	<b>5秒</b> たたんだまま 脱水槽に入れて 本回転から5秒間 脱水します。 	<b>10秒</b> たたんだまま 脱水槽に入れて 本回転から10秒間 脱水します。 
	<b>1分</b> たたんだまま <b>きれいな水に</b> つけておきます。 	<b>1分</b> たたんだまま <b>きれいな水に</b> つけておきます。 
<b>すすぎを2回行う</b>		
脱水	<b>5秒</b> たたんだまま 脱水槽に入れて 本回転から5秒間 脱水します。 	<b>10秒</b> たたんだまま 脱水槽に入れて 本回転から10秒間 脱水します。 



※洗たく機を利用してつけおきの際は、すすぎのときに一度衣料を取り出し、水をためてから衣料を入れてすすいでください。

※汚れ方のひどいものは、長時間つけおきしておくより、いったん脱水し、新しい洗たく液で、もう一度つけおきする方がきれいに洗えます。

※脱水は水滴が落ちない程度に軽くするのがポイントです。脱水のしすぎはシワの原因になります。

※柔軟剤・酸素系漂白剤も使えます。柔軟剤を使う時は、2回目のすすぎ時に入れてください。

## お洗たく方法②

洗うものの種類	<b>型くずれの気になるもの</b> スラックス、スカート、学生服、ジャンパーなど 	<b>毛布などの大物</b> 毛布、夏掛けふとん、カーテンなど 
	<b>つけおき</b> 3～5分 軽くたたんで洗たく液につけておきます。 	<b>つけおき</b> 10～15分 軽く折りたたんで洗たく液につけておきます。 
※汚れが気になる部分はやさしく押し洗いしてください。		
脱水	<b>10秒</b> たたんだまま脱水槽に入れて本回転から10秒間脱水します。 	<b>30秒</b> たたんだまま脱水槽に入れて本回転から30秒間脱水します。 
	<b>すすぎ</b> 1分 たたんだままきれいな水につけておきます。 	取り出して水をためる <b>1分</b> たたんだままきれいな水につけておきます。 
<b>すすぎを2回行う</b>		
脱水	<b>10秒</b> たたんだまま脱水槽に入れて本回転から10秒間脱水します。 	<b>30秒</b> たたんだまま脱水槽に入れて本回転から30秒間脱水します。 

「お洗たくのコツ」も合わせてご確認ください。

●ブラウス

8 ページを参照

●毛布やカーテンなどの大物洗い

9 10 ページを参照

●ダウンジャケット

11 ページを参照

# お洗たくのコツ①

## ブラウス・シャツの洗い方

### 1.色落ち確認

色落ちしやすいもの、心配なものは 4 ページの色落ち確認の方法にしたがって、確認してください。とくにプリント染め、極端な色使いのものは、洗う前に必ずチェック。

### 2.シミや汚れのひどい部分は前処理

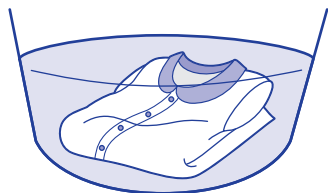
ぬれタオルなどで、シミや汚れの周囲をぬらし、輪ジミを防ぎます。タオルなどに原液をつけてたたきます。

※傷みの原因となりますので、決してこすらないでください。



### 3.軽くたたんで、つけおき

つけおき(1~3分)



脱水(5秒)またはタオルドライ

つけおきすぎ①(1分)

つけおきすぎ②(1分)

脱水(5秒)またはタオルドライ

陰干し(ハンガー干し)

※洗たく機をまわすのは脱水だけです。



### タオルドライ

バスタオルの上に衣料をのせ、型をととのえてから、さらにバスタオルをかぶせ、軽く押して水分を取ります。脱水しすぎないのが、洗たく後のシワを防ぐコツです。

両肩をつかんで振りさばき、全体の小ジワを取ります。えりやそで、すそを軽く引っ張り、型をととのえて干します。

生乾きのとき(干してからおよそ1時間半くらい)にあて布をして中温(140~160℃)でドライアイロンをかけると、小ジワがつきにくく、きれいに仕上がります。乾きすぎてしまっていたら、霧吹きでもう一度湿らせてください。





## お洗たくのコツ②

### 毛布・うす手の布団(夏掛け、こたつ、子ども・ベビー布団)の洗い方

#### 1.色落ち確認

色落ちしやすいもの、心配なものは 4 ページの色落ち確認の方法にしたがって、確認してください。

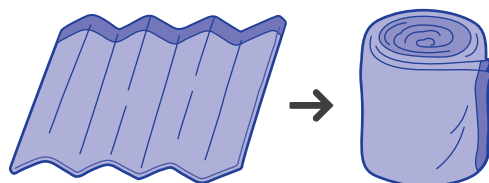
#### 2.掃除機やふとんたたきでほこりを払ってください。

#### 3.シミや汚れには

洗う前におしゃれ着洗いの原液をつけ、タオルなどでやさしく押さえてください。

#### 4.丸めて、つけおき

屏風たたみにして、丸めて洗たく機へ入れます。全体がつかろう、ゆっくり空気を抜くように押し沈めてください。



洗たく機に入らない場合は、お風呂場の浴槽を利用して洗うことができます。この場合、脱水は浴槽のせんを抜き、ある程度水が抜けたら浴槽のふちにかけて、自然に脱水してください。

つけおき(15分)



脱水(30秒)

つけおきすすぎ①(1分)

つけおきすすぎ②(1分)

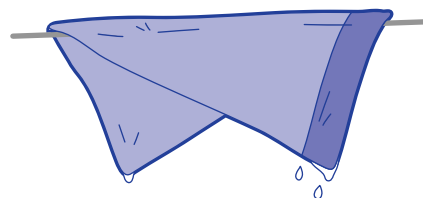
脱水(30秒)

陰干し(三角干し)

※洗たく機をまわすのは脱水だけです。

水滴が一定方向からおちるように、三角干しで干します。布団は、乾いたら手でかたよった中綿をほぐして均等に、ふくらみを戻せば仕上がりです。毛布は、パイル(毛なみ)の方向に軽くブラッシングしてください。

三角干し



# お洗たくのコツ③

## カーテンの洗い方

### 1. 素材・収縮率の確認

あらかじめ表示されている収縮率を確かめてください。  
初めて水洗いするときは、その分だけ縮みます。



レーヨン・レーヨン混紡や、オーダー品など取り扱い絵表示がなく素材や収縮率が分からないときは洗わないでください。

### 2. 色落ち確認

色落ちしやすいもの、心配なものは 4 ページの色落ち確認の方法にしたがって、確認してください。

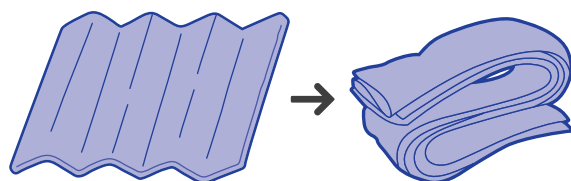
### 3. 掃除機やふとんたたきでほこりを払ってください。

### 4. シミや汚れには

洗う前におしゃれ着洗いの原液をつけ、タオルなどでやさしく押さえてください。

### 5. 屏風たたみにして、つけおき

屏風たたみにして、つけおきます。  
まず縦に屏風たたみ、さらに横にも屏風たたみにします。



つけおき(15分)

脱水(30秒)

※洗たく機をまわすのは脱水だけです。

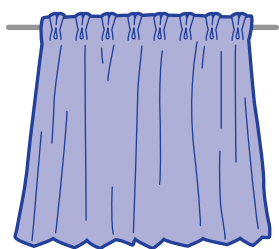
つけおきすすぎ①(1分)

つけおきすすぎ②(1分)

脱水(30秒)

乾燥

カーテンレールなどにかけて、乾かします。



## お洗たくのコツ④

### ダウンジャケットの洗い方

#### 1.色落ち確認

色落ちしやすいもの、心配なものは 4 ページの色落ち確認の方法にしたがって、確認してください。

#### 4.シミや汚れには

洗う前におしゃれ着洗いの原液をつけ、タオルなどでやさしく押さえてください。

#### 3.軽くたたんで、つけおき

衣料全体がつかれるよう、ゆっくり空気を抜くように押し沈めます。  
このとき、衣料をもまないでください。ダウンが固まり、型くずれの原因になります。

つけおき(15分)



脱水(30秒)

つけおきすすぎ①(1分)

つけおきすすぎ②(1分)

脱水(30秒)

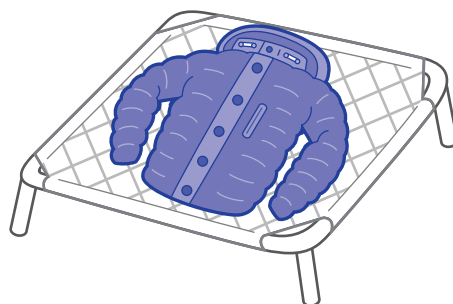
陰干し(平干し)

※洗たく機をまわすのは脱水だけです。  
ただし、防水性、はっ水性のものを脱水する場合は、洗たく機を使わず、手で押さえて脱水してください。

風通しのいいところで陰干しします。

水を含んで重くなっているのので、ハンガーよりも平干しネットなど平らなところで干すほうが、型くずれを防ぐことができます。  
おふろのふたにタオルを敷いたものでも代用できます。

乾きかけた時に、手でかたよったダウンをほぐし、均等にしておきます。さらに乾かして、全体をポンポンとたたいてふくらみを戻せば仕上がりです。



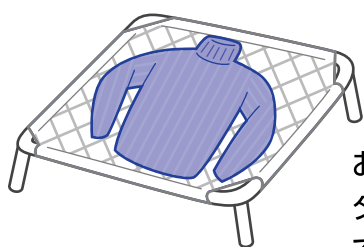
# 干し方

干すとき、手でたたいてシワを取っておくと、仕上げのアイロンがけが楽になります。

**陰干し(乾燥)** 衣類乾燥機は使用しないでください。

## ■平干し(セーター・カーディガン)

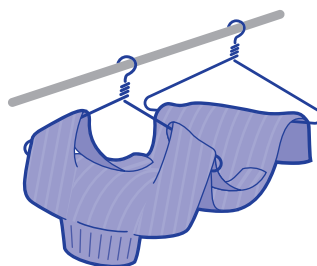
伸びやすいので平干しネットがおすすめ。



お風呂のふたに  
タオルを敷いたもの  
で代用できます。

## ■ハンガー干し①(セーター・カーディガン)

平干しできない時はハンガー干し



ハンガーを2~3本  
使って衣料の重さを  
分散させます。

## ■うす手のシワになりやすいもの

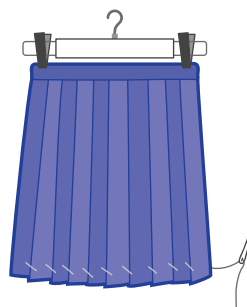
平干しまたはハンガー干し



タオルドライして  
生乾きの時にあて布  
をしてアイロンを  
かけると小ジワが  
つきにくくなります。

## ■ハンガー干し②(スカート・スラックス)

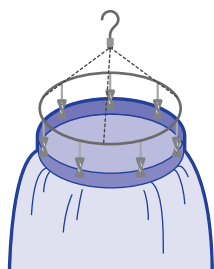
形を整えてハンガー干し  
(伸びやすいものは平干し)



プリーツなどのヒダが  
とれやすいものは、  
あらかじめ、しつけ糸  
でとめて洗たくし、  
乾いてからとります。

## 雨の日など乾きにくいときのひと工夫

■衣料の間にすきまをつくります。



スカートは裏返して  
ピンチハンガーで  
筒状に干します。



ブラウスは肩に厚み  
のある洗たく物干し用  
のハンガーや、肩部に  
タオルを巻きつけた  
ハンガーで干します。

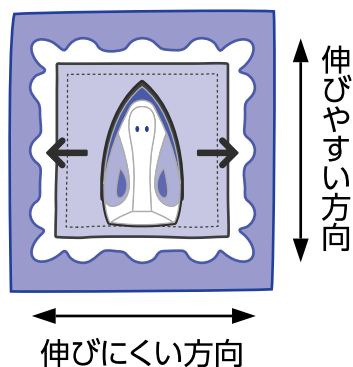
# 仕上げ方

アイロンは衣料についている洗たく絵表示を確認し、繊維に合わせた温度でかけてください。

## 上手なアイロンがけ

### ■ スカーフ

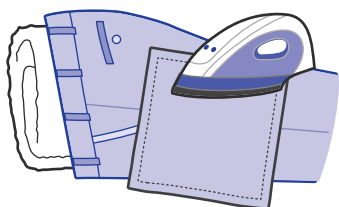
(あて布をしてドライアイロンをする)



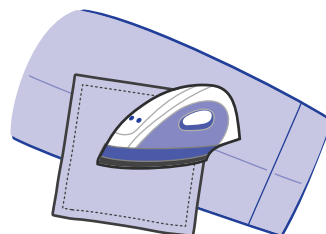
平織りの生地には張ってみて伸びやすい方向と伸びにくい方向があります。アイロンは伸びにくい方向にあててください。

### ■ スラックス

(あて布をしてスチームアイロンをする)



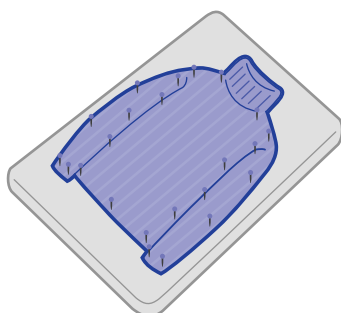
①バスタオルを丸めて入れ、腰回りを仕上げます。



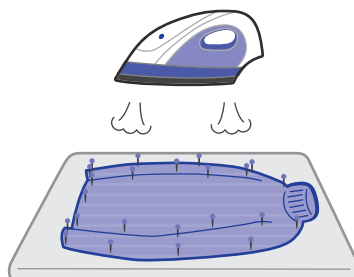
②すそから、また下までの縫い目を合わせながら、中心に折り目をつけていきます。

### ■ セーターなど

(ウール、絹、麻などで洗たく後縮んだものは、この方法である程度伸ばすことができます。衣料購入時に型紙を取っておくと便利です。)



①完全に乾いてから、広いアイロン台に、伸ばしたい寸法に広げマチ針を打ちます。



②スチームアイロンを浮かしてたっぷりのスチームをかけ、完全に乾くまでそのまま置きます。

# こんな事が起きないために

## 黄ばみ

- 必ず、陰干ししてください。  
(デリケートな繊維は日光に弱く変色しやすくなっています。)
  - 鉄分の多い水で洗うと、黄ばむことがありますのでご注意ください。
  - 漂白剤との併用にご注意ください。  
(毛、絹等の繊維は塩素系や酸素系漂白剤で黄変することがあります。)
- ※漂白剤は繊維との適合性があります。ご使用される際には、衣類の取扱い表示や漂白剤の表示をよく読んでからお使いください。

## 色落ち

- 色落ちしやすいもの、心配なものは、あらかじめ 4 ページの要領で色落ちを確認してください。  
(染色・染料によって色落ちしやすいものがあります。)

## 色移り

- 白物と色柄物を分けて洗うのが安全です。
- 洗剤の量が多すぎたり、水が少なすぎたりした場合、色移りしやすくなります。洗剤の使用量を守ってください。

## 縮み

- 30℃以下の水を使ってください。  
(特にシルクやウールなど動物性繊維はぬれた状態で強くこすり合わせたり、熱いお湯につけると縮みます。)
- 脱水のかけすぎに注意してください。
- 乾燥機の使用はおやめください。

## 伸び

- ニット、毛、アクリルなど伸びやすい素材の物はつるさずに平干しにします。

## シワ

- 脱水のかけすぎに注意してください。
- きちんとたたんで、つけおき、脱水を行ってください。
- 干す時には、型を整え、シワを伸ばして干してください。(アセテート、絹等、デリケートな繊維は、長い時間脱水すると取れにくいシワになります。)